

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第6部門第1区分  
 【発行日】令和4年10月20日(2022.10.20)

【公開番号】特開2022-118587(P2022-118587A)  
 【公開日】令和4年8月15日(2022.8.15)  
 【年通号数】公開公報(特許)2022-148  
 【出願番号】特願2021-15201(P2021-15201)  
 【国際特許分類】

G 0 1 N 2 7 / 3 0 ( 2 0 0 6 . 0 1 )

10

G 0 1 N 2 7 / 4 8 ( 2 0 0 6 . 0 1 )

【 F I 】

G 0 1 N 2 7 / 3 0 F

G 0 1 N 2 7 / 4 8 3 1 1

G 0 1 N 2 7 / 3 0 B

【手続補正書】

【提出日】令和4年10月12日(2022.10.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

20

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

センサ搭載面を有する基材と、  
 前記センサ搭載面上に配されるチップ状のセンサ電極と、  
前記基材に形成され、前記センサ電極に電気的に接続される配線部と、  
 前記センサ電極に付帯して設けられる台座部と、  
 前記センサ電極を覆うように配されるカバー部材と、  
 を備え、  
 前記センサ電極は、前記センサ搭載面に対向する面の反対側の面が被検液中の特定成分を検出するための検出面として機能するように構成されており、  
 前記台座部は、前記センサ電極および前記配線部を含む配置スペースを取り囲むように設けられるとともに、前記センサ搭載面からの高さ位置が前記検出面と揃うように配される当接面を有しており、  
 前記カバー部材は、前記検出面および前記当接面に接することで位置固定されるとともに、位置固定された状態で、前記センサ電極および前記配線部を含む配置スペースを覆いつつ、前記検出面の一部領域を露出させる開口部を有して構成されている  
 電気化学センサ。

30

40

【請求項2】

前記台座部は、前記基材と別部材で形成されており、前記センサ電極に付帯して前記基材に装着されるように構成されている

請求項1に記載の電気化学センサ。

【請求項3】

前記センサ搭載面は、前記基材の一部除去によって形成されており、

前記台座部は、前記基材と一体で前記基材の一部を構成するものである

請求項1に記載の電気化学センサ。

【請求項4】

前記センサ電極は、前記被検液が付着した状態で印加電圧に応じた酸化還元反応を生じ

50

させるダイヤモンド膜と、前記ダイヤモンド膜を支持する支持部材と、を有し、  
前記ダイヤモンド膜によって前記検出面が構成されている  
請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の電気化学センサ。

【請求項 5】

前記カバー部材は、絶縁性を有するシート材と、前記シート材の少なくとも一方の面に  
形成された粘着剤層と、を有して構成されている  
請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載の電気化学センサ。

【請求項 6】

前記開口部は、平面形状が非扁平な形状に形成されている  
請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載の電気化学センサ。

10

【請求項 7】

前記開口部は、平面形状が円形状に形成されている  
請求項 6 に記載の電気化学センサ。

【請求項 8】

前記センサ電極は、ワイヤボンディングによって前記配線部と電気的に接続される  
請求項 1 から 7 のいずれか 1 項に記載の電気化学センサ。

【請求項 9】

前記センサ電極は、フリップチップボンディングによって前記配線部と電気的に接続さ  
れる  
請求項 1 から 7 のいずれか 1 項に記載の電気化学センサ。

20

【請求項 10】

前記センサ電極とは別の第二センサ電極が前記センサ電極と並列配置されて構成されて  
いる  
請求項 1 から 9 のいずれか 1 項に記載の電気化学センサ。

【請求項 11】

前記センサ電極とは別の第二センサ電極が前記センサ電極と対向配置されて構成されて  
いる  
請求項 1 から 9 のいずれか 1 項に記載の電気化学センサ。

30

40

50